

令和2年度第1回  
日野市総合教育会議

議事録

日野市企画部企画経営課

## 令和2年度第1回日野市総合教育会議議事録

日 時 令和2年7月14日（火） 13時30分～14時50分

場 所 PlanT イベントスペース

出席者 大坪市長、米田教育長、高木教育長職務代理者、西田委員、東委員  
真野委員

事務局＝高橋教育部参事、谷川教育部参事、志村発達・教育支援センター長正留教育  
センター所長、田村統括指導主事、篠崎子ども部長、山下健康福祉部長、  
熊澤障害福祉課長、萩原セーフティネットコールセンター長、岡田企画部長、  
中村企画経営課長、山本企画経営課課長補佐、小林企画経営課主任

### 議 事

(1) 開会あいさつ（市長）

(2) 議 題

議題第1号 大綱の実現に向けた市の取組について  
総括（一覧表）（資料No. 1）

議題第2号 新しい学びの創造  
意見交換（資料No. 2-1、2-2）

(3) その他

### 配布資料

資料No. 1	大綱推進に資する事業一覧
資料No. 2-1	ひのっ子きょういく臨時号
資料No. 2-2	総合的な学習の時間事務局案
参考資料	学びと育ちの日野ビジョン（日野市総合教育大綱）

(議事の要旨)

○中村企画経営課長 それでは、皆様お揃いですので総合教育会議を始めさせていただきます。

総合教育会議は、市長が招集する会議となっております。議事進行は市長にお願い申し上げます。

○大坪市長 それでは、令和2年度第1回総合教育会議を開催いたします。なお、本日は傍聴希望者がいらっしゃいます。傍聴を許可いたしますのでご承知ください。

それでは、次第に従い、開会にあたり一言あいさつ申し上げます。

本日はお忙しい中、令和2年度第1回総合教育会議にご参加いただき、誠にありがとうございます。

昨年度の開催から約1年ぶりの開催となります。

日野市では、平成27年度に「学びと育ちの日野ビジョン」を策定しております。このビジョンの実現に向けて、各分野で取り組まれている施策の進捗を確認し、ご意見をいただき、そのご意見をそれぞれの施策に反映していくことが、この総合教育会議の重要な役割でございます。

本日はその「学びと育ちの日野ビジョン」の6つの柱ごとの各事業に対して、昨年度との比較で追加となった事業をお示しするとともに、今回のコロナ禍においてこれまで以上に重要性・注目が高まっている学校の対応として「新しい学びの創造」について説明させていただき、意見交換を行うという形で会議を進めてまいりたいと考えております。

委員の皆様からは忌憚のないご意見をいただき、実りある会議となることを願いまして、簡単ではございますが私からの挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして本日の議題に入ります。

まず、議題の第1号「大綱の実現に向けた市の取組について」事務局より説明をお願いします。

○中村企画経営課長 それでは、議題第1号大綱の実現に向けた市の取組について、ご説明申し上げます。

市と教育委員会では、昨年度に引き続き、大綱の実現に向けて取り組んでいくこととしております。その取組状況の概略につきまして、資料1によりご説明をさせていただきます。

資料1では、大綱に掲げている6つの柱ごとに、日野市全体として今年度に取り組んでいる内容を記載しております。特に昨年度から比較し、追加させていただいた事業については、表の中で下線を引いております。本日は、追加事業の主な内容に絞り、

順にご紹介をさせていただきます。

まず1ページ、2ページをご覧ください。一つ目の柱である「人・もの・こと」とのかかわりの中で、自ら学び 未来を拓く ひのっ子を育てる」でございます。この柱においては、最下段に発達・教育支援課の「ライフスキルトレーニング事業」を追加しております。

続きまして3ページ、二つ目の柱は「虐待」「いじめ」「貧困」から子どもの育ちを守り、支える」取り組みです。こちらの項目に関しては、3ページの中段、「エール学校派遣心理士事業」、続きまして4ページの中段、「スクールソーシャルワーカーによる居場所支援事業」を追加しております。

続きまして5ページ、三つ目の柱である「ふるさと日野」を伝え、郷土愛を育む取り組みです。この柱においては、5ページの下段、多世代交流事業「蚕でつなぐプロジェクト」などを追加しております。

7ページ以降については、追加事業はございませんので説明は省略をさせていただきます。議題第1号についての説明は以上となります。

○大坪市長 ありがとうございます。議題第1号、日野市総合教育大綱について何かご意見、質問等ございましたらお願いいたします。

○高木委員 今、昨年度との比較で追加された事業の説明をいただきました。冒頭、市長からありましたように、このビジョンは平成27年の2月に制定をして今年度で5年になります。大綱・ビジョンというわけではありますが、これだけ世の中の変化が激しいし、コロナ禍で環境が大きく変わるなかで大綱の扱いについて今後どうしていくのか。まだ5年ですので、大綱に基づいて進めていくことかとは思いますが、ある程度時流に基づいた課題の切り替えや見直しについてもよろしく願いいたします。

○大坪市長 高木委員からお話しがありましたように、ビジョン策定から5年が経っております。世の中の動きも変わっているし、我々日野市においても、新しい第3次教育基本構想が出来ている。その中で、100年に1度と言われている新型コロナウイルスの騒ぎがあって、いろいろな課題が出てきている。その中で教育大綱・ビジョンについても当然見直しを随時していかななくてはならないと思っております。今日のテーマにコロナ禍に関する話もありますので、今後の教育大綱について、新しい時代における対応についてというのも課題かと思えます。その議論を踏まえながら、大綱についても見直しをしていかなければならないと思っております。

他にご意見等ございますか。

それでは次に、議題第2号「新しい学びの創造」について、でございます。学校は、新型コロナウイルスの感染防止のため、3月3日から春季休業をはさんで5月31日まで、長期の臨時休業となっております。6月から段階的に再開し、今日で通常登校が始まってから約1か月が経ったところでございます。はじめに、臨時休業中、そ

の後の学校の状況等について、担当課から説明をお願いします。

○谷川参事 教育部参事の谷川でございます。よろしくお願いいたします。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、3カ月にわたる臨時休校を行いました。このように長い期間にわたって子どもたちが学校に登校できない状況を、私たちは初めて体験いたしました。また、分散登校という状況も初めて経験することになりました。臨時休校の期間、子どもたちが学校に登校できなくなって困ったことについて、学校や保護者の方から聞こえてきた声としては、第一に、子どもたちの学習が止まったこと。第二には、子どもたちの生活リズムが崩れてしまったこと。第三に、保護者と子どもとの家庭内でのトラブルが増えたこと。子ども家庭支援センターへの通告の件数も増えたことが話されています。この3件があげられます。一方で学校と地域の繋がりや強さ、それから学校を支えてくださる方がたくさんいることに気づいたという声もたくさんありました。そして多くの学校からいただいたのは、これまで登校できなかった子どもたちが登校するようになったということです。

日野市教育委員会では、子どもたちの学びを止めないため、日野市立学校で導入している個別学習支援システム「インタラクティブスタディ」を活用したり、先生方に協力していただき作成した動画を配信したりし、子どもたちの学習を止めないよう、ICTを活用したオンライン教育を進めました。学校でも教材の配布や動画を作成しホームページにアップをしたりしました。また、電話連絡や家庭訪問を行い、更に希望する方には個人面談などを行っています。こういった経験を通して、私たちは学校が持つ役割を改めて感じました。それは学校では教科の学習を進めることはもちろん、体を動かすことや、心や体の健やかな成長につながっていること、人と人が関わり合うことで人間関係を学んでいる。こういった役割があるということです。子育てに大きな役割があったということも改めて感じました。それから、校長先生から、保護者からの苦情が少なくなり、相談が変わったという話を聞きました。それは、これまで子育てに関わる保護者の負担が学校に対する強い要求となって現れていましたが、しかし、休業中に面談をされることで、学校と保護者と一緒に子どもの成長を支えているという見方をしていただけになったということです。そういった家庭では家庭内のトラブルも減ったと聞いております。現在学校では休業中の経験を活かし、地域や保護者と一体となって活動を進めようとしております。分散登校をきっかけに登校が出来るようになった子の多くは、現在も引き続き登校出来ているという報告を受けております。私からの報告は以上でございます。

○萩原セーフティネットコールセンター長 セーフティネットコールセンター長の萩原と申します。私からは日野市生活困窮者等子どもの学習・生活支援事業、通称ほっともの状況についてご説明させていただきます。ほっとものは学校の休業に合わせて、3月3日から3月15日まで休止いたしました。その間に、各事業所の感染拡大防止のための対策について話し合いをし、3月16日より再開しました。その際には基本

的には家庭保育可能な場合は自宅で見えていただくようにいたしまして、それ以外の方については保護者の方に承諾書や健康観察カードの提出をお願いするとともに、お子様については、マスクの着用・手洗いの徹底、施設に来られた際の手指消毒を徹底し、再開となりました。ただ、4月7日の緊急事態宣言発出に伴いまして、どのように進めて行くかを検討した結果、時間を午後4時半から午後8時までで実施していましたが、4時半から7時までと、1時間短縮をさせていただきました。かつ、週2日の実施でしたが、グループを2つに分けて、週1日ずつの実施という形にいたしました。また5月25日、緊急事態宣言が解除に伴い、6月1日より、時間は8時までに戻させていただきました。ただ、グループ分けについては継続して実施をしたところです。

そして先日、7月1日より通常利用に戻させていただいたところでございます。3月3日からの15日の休止期間も保護者の方はお子様とコミュニケーションが中々うまくいかない方も多く、そういう方はこの2週間程度の間も親子関係を保つのに非常に苦勞されたところが見受けられたと事業者より聞いております。事業者へ電話があり、早く再開してくれないかというような声もあったと聞いております。それからコロナ禍におけるほっとも食事の提供は通常通り行わさせていただきました。私からは以上です。

○発達・教育支援センター長 発達教育支援センター長の志村です。私からはスクールソーシャルワーカー（SSW）の対応について、ご報告させていただきます。SSWについては、この間も変わらず訪問支援を続けてまいりました。学校に行けない子どもたちが学校休業ということで、学校へのプレッシャーが無くなり、この間とても穏やかに過ごしていたというのが皆の感想です。この間にひとつ、大きな進歩あったと思っています。オンライン学習という言葉が出てきて、子どもの中では学習に興味を持った子どもたちが少し出てきたということです。経済的に余裕のある家庭ですと民間で出ているオンライン学習の機材を渡した家庭もあったようですが、日野のインタラクティブスタディもSSWの方々には各ご家庭に進めていただきました。この間、何名かはインタラクティブスタディを始めたということで、お子さんの感想として、先生は宿題を持ってきてくれるけど、宿題は授業に出ていないからわからないけど、このインタラクティブスタディでは1年生の時から学習が始められるためとても良かったという意見があったようです。ひとりで学習は中々進められないですが、ある学校の先生はこのインタラクティブスタディの状況を確認しながら定期的に宿題を持って行くような形で確認をし、学習に取り組んでいるというような報告も何点かありました。以上SSWからです。

○正留教育センター長 教育センターの正留です。わかば教室について状況報告をさせていただきます。新型コロナの対応で休業になって、わかば教室は、各学校と連携をしつつ、全ての児童・生徒と連絡をして、状況を把握するとともに、困ったらいつでも電話・訪ねてきて良いという体制で臨みました。ただ、連絡が中々つかなかっ

たところもありました。今年は中学生39名、小学生11名のわかば教室のスタートでした。分散登校が始まって、わかば教室に来るかと思っていたのですが、何人か来ない。連絡を取ってみますと約13名の子が分散登校が始まってから、学校に通っているという状況がわかりました。当然ながら学校に毎日行っている子もいれば、数日という子もいますけれども、13名の子に変化があったということです。これはすべて中学生です。わかば教室通室生以外の学校へ通えていない児童・生徒も恐らく、分散登校により学校へ通えるようになったのではないかなと思います。このデータを今後活かすためにも、なぜそのときに通えたかということ进行分析し今後活かしたいと思っています。ひとりひとりの子の学校に行けないハードルは全て違うと思います。でも、この期間、学校が緩やかな形の分散登校でスタートしたので、行けたのかなと考えられます。我々が考えないといけないのは、そのハードルが何であったのかをきちんととらえ、今後活かすことだと思います。以上です。

○大坪市長 担当よりそれぞれ説明をいただきました。説明にもありましたように、臨時休業によって、学校は学習の場に留まらず、多くの社会的役割があることを改めて考えさせられたと思います。それぞれ、新しい発見があったという話もありました。委員の皆様からご意見を頂きたいと思います。

○真野委員 真野です。よろしくお願いたします。今、いろいろな説明を伺いました。感じたこととしては、コロナを通じて、様々な学びを得たという思いがあります。そのひとつひとつがこれからの財産ではないかと思います。当たり前かもしれませんが、そのひとつとして学びは学校だけでは完結しない。また、家庭との連携プレーの大切さも改めて感じました。家庭から見たら、学校があるのはありがたい。ただ、学校任せではいけない。家庭でもやれることをやらねばとの思いを育ててくれたのではないかと思います。先生は子どもたちが学校に来なくても、学びを前進させるための学びについて、考え、様々な発信をしてくださいました。しかしそれも、家庭の協力がなしでは成し得ない。お互いの役割を認識して、感謝の連鎖と言いますか、連携プレーが出来る土壌を平常時から育てていかねばならないということを改めて教えていただいたという思いです。以上です。

○大坪市長 他にいかがでしょう。

○東委員 東と申します。この休業中に保護者、家庭は3か月間にわたり、本当によく頑張っていたと思います。子どもにとっても、保護者にとっても、「学校」というものがどれだけ生活の一部だったか。身をもってわかり、ありふれた日常のありがたさを改めて知ったと思います。休業中に学校の役割として、子どもの居場所としての社会的役割を担っていたこと、特に、食の自立をしていない低学年お子さんの居場所になっていたことです。これはとても大きなことだったと思います。長期間に

わたり家庭で食事の面倒をみるお母さん方にとって、学校給食のありがたさというのは本当に大きなものでした。学校給食が提供できなかった時には民間活力を使って、日野のJ Cのメンバーの協力によって、子どもたちにお弁当を届ける事業に発展したということ。これは学校だけでなく地域が一緒になって活動したということで、今後もいろいろな循環に繋がっていくのではないかと思います。子どもたちの感謝のお手紙が地域の店舗に張られ、それを見てまた店舗に行くような関係作りがこれからもできたら良いなおもいます。それから休業中の先生たち。先生たちも職員を減らして働いたわけですが、子どもたちをみるために今までとは違う視点が出来ていたと思います。今までは自分たちの学年、自分たちのクラスを一生懸命見ていました。今回は、先生たちが交代でお休みを取っていた為に、学年を超えて、子どもたちを見られていたこと。それは大きな視点の変化だったと思います。分散登校により子どもたちが学校に行けるようになったこと。これは先ほど正留センター長からもありましたが、学校の役割は何かということ、それを今私たちが考えなければならないと思いますし、子どもたち自身も一緒に考えてもらいたいと思います。これからの学校を一緒につくっていきたいと思います。以上です。

○大坪市長 他にございますか。

○西田委員 西田です。ただ今お話しをしていただいたように、休業中に学校をはじめ様々な部署で、すべての子どもたちが安全と心身の健康・学びと育ちのために努力をしていただきました。心から感謝いたします。私は、休業中に不登校にある児童生徒について絞って2つお話しさせていただきたいと思います。まずはじめは、不登校にある児童・生徒の様子についてです。休業中にある校長先生が、「学校が休業になったら、今まで不登校だった子どもが学校に来ていると、笑顔で話してくださったことがありました。ただいま正留教育センター所長からも、分散登校が始まったら13名もの生徒が自校に登校しているという報告がございました。今も登校出来ているという嬉しい報告も聞いております。これはすごいことだと思います。私はかつて「わかば教室」で子どもたちの指導に当たっていましたので、不登校になった子どもたちにとって学校に戻ることはとてもハードルが高く、容易ではないと身をもって知っていますから本当に驚きました。正留教育センター所長も話されましたが、休業中や分散登校だと、どうして登校できたのか、それを丁寧に分析して、そこから分かったことを教育活動や教育相談に活かさせていただきたいと思います。きっと不登校の問題の解決の糸口が見つかると思います。2つ目は三沢中学校の登校支援教室についてです。休業中に三沢中学校が登校支援教室、すなわち、「学校わかば」をつくって、生徒が来ていると聞きましたので早速、正留教育センター所長と様子を見に学校へ行きました。登校支援教室では、学級に入れなくても登校出来るようになることを第一段階として、生徒ひとりひとりの課題を少しずつ解決しながら、最終的に教室に入ることを目指していました。6月に既に8人の生徒が登校していました。登校の仕方や過ごし



方は様々ですが、ひとりひとりが今の目標を持っていて、現状より少しでも改善していこうとする本人の気持ちがよく伝わってきました。他の生徒と顔を合わせないで済むように、部屋の入口を工夫したり、下校時間をずらしたりしていました。登校支援教室をつかったことで、不登校の状況にあった生徒が学校に戻るという非常に高いハードルをひとつ超えることができました。これは教室に戻れる第一歩です。何より、担任や部活の先生がそばにおられて、指導や声掛けをしてくださるので、生徒の気持ちも安定しますし学級に戻るきっかけもつかめます。しかも「わかば教室」に通うには距離的に困難な問題も解決出来ます。ぜひ「学校わかば」が、他校にも広がるよう、行政の協力をお願いしたいと思います。問題なのは指導者の配置です。三沢中では校内の全職員の中で担当を分担して指導にあたっておられました。色々工夫されていて、本当に頭が下がりましたが、やはり限界があります。「学校わかば」を広げるためには指導者の配置が必要です。登校支援教室の意義をご理解いただいて、指導者の配置を是非お願いしたいと思います。

○高木委員 新しい学びの創造というか、コロナ、何を学ぶか、学校の本質であり、社会的な役割について、改めて認識をすると強く思っています。先ほどありましたように、これまで地震ですとか、あるいはインフルエンザのような感染症の流行があって、休校や学級閉鎖があったのですね。今回の新型コロナのように突然3か月間、3月から長期による地域だけでなく全国的な休業はかつて経験したことがないという事態だと思います。この長期間の休業で多くの生徒ですとか先生方、保護者や地域の皆さん、我々自身も、感じたのは、いかに学校は大切か・大事か。あるいは学校に行けることが当たり前だと思っていたけれども、そのことがいかに大切なことか。友達や先生とのいろいろなことがいかに楽しいことか。なぜかというと学校という場所はプレイスだけではなく、機関と言いますか、システムと言うのか、社会基盤という色々な役割を持っていると改めて認識をしながら、学校を起点にした多くの活動の重要性や大切さを今さらながら痛感したということではないかなと思います。例えて言うのなら、水の張った池の水を抜いてみたら、いろいろなものが改めて見えて、貴重さ、大切さがわかったという感覚を味わっていると思います。それから、学校はそれぞれの人にとって非常に大きな役割を担っていること、あるいは持っているということを改めて感じます。

児童・生徒にとっての役割、当然学びをする場ではありますけれどもやはり、家庭ではない自分たちの居場所。あるいは友達と共に成長を支え合うとか、厳しい親子の関係の中では避難所の役割もあるかもしれません。言い過ぎかもしれませんが。それから、先生にとっての役割として、単なる職場だけではなく子どもたち生徒たちと自分も成長しながら、また、子どもたちとの社会的な場としての役割もあります。今回のコロナにより、やはり自宅でリモートワークを余儀なくされた親御さんにとっては非常に重要な場所であった。というように非常に、それぞれ感じるがあったかと思えます。やはり基本は生徒・児童にとっても学ぶ場ということとともに、給食と

いう食の提供も含めたセーフティネット、安全網として重要な社会的役割を担っているということが再認識できたのではないかと思います。報告にもございましたが、不登校の子どもさんにとっては、学校は必ずしもセーフティネットにはなっていないという実態がありますし、コロナ禍では分散登校での短時間授業ですとか、そういう状態では登校が出来たお子さんも多くいらっしゃるということもあった。今後の対策の中で検証を深めるべき事項のひとつであると考えています。

また、現在も各地で雨が続けているわけですが近年多発している水害ですとか、地震等の災害の避難場所としての機能も学校は担っているという実態があります。社会的にセーフティネットとしての期待は逆にこれから高まるのではないかと思いますし、非常に責任が重い部分も出てきます。学びの場として学校はいろんな影響が出てくるかもしれないと懸念もしております。そういった意味で、学校に対する今後期待される役割と児童生徒の学びを止めない学校運営の在り方についても、早急な調整・整備と言いますか、考え方の整理が必要になっているのではないかと感じました。

○大坪市長 教育長

○教育長 ひとつは、やはりまずは子どもにとって、家庭にとって地域にとって、無くはないものであるということ。もうひとつは、今まで一律一斉でやってきた学校文化をもう一度見直す転換期に来ていると思いました。ひとりひとりの学びのエネルギーは多様。それから繋がりや安心も多様です。それから、家庭の状況も多様です。やはり、学びとつながりは止めない。だけど、その在り方は多様なのだということをもう一度しっかりと考えたい。学校の本質とは何なのか考える必要があると考えます。

○大坪市長 委員の皆様、ありがとうございます。先ほどの各担当からの説明、そして皆様のご意見。学校の本質、また、休業前はわからなかったこと。不登校の子がなぜ登校するようになったのか。いろいろな気付きがあって、保護者の立場、生徒の立場、先生の立場からもいろいろな気付きがありました。教育長からありましたように一律一斉の学校文化が変換期を迎える。そんな体験だったのかなということでありました。ただ、それぞれ良い面もありますが、やはり3か月、おそらく子どもたちの学び、それからいろいろな育ちについてそして子どもたちの学校に行けることが前提となっていた進め方にも大きなダメージがあったことは間違いないと思います。そのあたりは次の課題になってくると思います。今の議題の中の新しい学びについて皆さんにご意見いただきました。

続きまして、授業や学び、新しい気づきや発見とは別に、これまでである意味犠牲になったと言われている授業や学びの在り方について考えてみたいと思っておりますので、現状と今後の方向性について、担当課より説明をお願いいたします。

○谷川参事 これからの授業や学びについて、説明をいたします。学校再開にあたり、子どもたちの学習で使用するため、学習指導要領の授業数を確保するよう、指示を行いました。その結果、教員や子どもたちは各学校で工夫し、学習指導要領に示された内容を指導するために必要な授業時間数をおおよそ確保することができました。しかし、例年実施している教育活動を全て行うには時間が不足しています。学校行事の見直しや授業の進め方の工夫が必要になります。子どもたちが主体的な学びとなることが必要であると考えています。人は興味があることは意欲的にどんどん学んでいきます。一方で国が主体となって進められる学習指導要領に示された内容を詰め込む授業では子どもたちの負担となるだけでなく、子どもたちを学びから遠ざけてしまうことにもなりかねません。子どもたちの主体的な学びを進めるために必要なことは、第一には、なぜ、どうしたら、不思議だな、こういった子どもたちの気付きを大切にすること。第二に子どもたちが自ら思った問を全て答えるのではなく、子どもたち自らが調べて考える活動を大切にすること。第三に、子どもたちが考え交流する活動を通してお互いの考えを深め合っていくこと。こういった活動が大切であると考えています。このような学びのある授業を行うためには、子どもたちに身に着けさせなければならない力が何かを定めていくことが必要になります。そのうえ、子どもと教材の親の持つイメージや、子どもたちの思考の様子を理解する。考えたことを形にするような工夫を入れた授業をデザインする力を教員自身が認識していくことが求められています。限られた授業の中、子どもたちが主体的に学べる体制にしていけるよう考えています。また、子どもたちがパソコンとインターネットを活用し、学校や教員と一緒に学んでいくことをやってきました。オンライン学習の新たな可能性を感じることができました。学校に登校していない子どもたちの学びの機会を保障し、人と人が繋がれる形でオンライン学習を進めて行きたいと考えています。以上でございます。

○高橋参事 教育部参事の高橋でございます。オンライン学習の必要性・可能性というお話がありました。皆さまからご意見のありました通り、学校での一斉の対面授業から今回コロナに合わせて、多様な学び方、個別の学習等が取り組みられました。一部試行的にさせていただきました。正直な話、やはり今想定しているギガスクール構想のように、近くで身近でいつでも使える環境の中で、日々の授業の中での取り扱いをして慣れておくことが良いのかなと考えております。以上でございます。

○大坪市長 今後の授業や学びの在り方について、2人の参事から説明をさせていただきました。新型コロナウイルス、甚大な影響があり学びの在り方・オンライン授業などがこれまで以上に注目度が高まっていると思います。委員の皆様からご意見を頂きたいと思っております。

○真野委員 オンライン授業の可能性について話がありました。今回コロナの対応を通して、ICTを活用したオンライン教育、また、イーラーニング、例えば動画を収

録して配信するような、イーラーニングの導入等があります。そういったものを導入すれば、すべて解決するわけではないと感じています。先生のもとで、教室に子どもたちが一堂に会してのリアルな教育との組み合わせがどうしても必要だと思います。

そこで、リアルな教育でないと実現できない学びとは何か。そういうことを考えていくべきではないかと考えます。先ほど説明がありました、手元の資料にも「伴走」という言葉があります。子どもたちとともに、先生が学び、お互いに成長する姿こそ、先生が一番力を発揮する場面だと思います。コロナの終息を待って従来の学びのスタイルに戻すのではなく、新しい学びの姿をつくりだす。そういう一期生との誇りをもって進んでいくのが良いと思います。また、学びについていえば、常に「これで良い」というものは無いと思います。もちろん、すぐに結果が出るものではなく、目標に届かないということもあるかもしれません。逆にそのギャップこそ、次なる挑戦へのエネルギーだろうと、そういう思いでこれからも進んでいただきたいと思います。よろしく願いいたします。以上です。

○大坪市長 ありがとうございます。他にご意見ございますか。

○東委員 日野市の教育委員会では、コロナ禍を経験して、そこで得たものは全て財産にしようという方針をたてました。不登校の子たちが学校に来られるようになったこと、オンラインの学習環境に興味を持って学習に取り組むことができたこと。このことはとても大きな財産だと思います。オンラインの学びを早急に整備していくのが課題だと思っております。学び方の選択肢が増えたということで、学校に行くことだけが全てではなく、今後も家庭でも学べる選択肢を増やしてあげたいと思います。ただ、私たちは教育というものはどうあるべきか、というのは、やはり、学校に子どもたちと先生たちが集まって心と心を通わせて、そこで育まれるものだということを感じております。この前、学校訪問がありまして、フルに始まった学校を見学してきました。時数を取り戻そうというような焦りが学校にあるのかなと心配していましたが、私にはそのようには見えなかった。コロナ禍で学校に来られなくなった時期があったからこそ、学びをしたいという目がキラキラした子どもたちがいっぱいでした。

体育を見学させていただきましたが、その時、背面飛びを男の子たちがやっていたのですが、何度も何度も最後のところで足が引っかかるのを悔しい悔しいと何度も挑戦していました。対面でのグループワークがし難いというのを心配していましたが、理科室には硫黄をガスバーナーで燃やす実験をしていました。男の子も女の子も共同作業があって、硫黄から臭いが発生して、臭いを感じることができて、クサイクサイとキャーキャーしている姿を見るとこれは家庭では出来ないことだなと改めて感じました。オンライン授業をこれから進めるということは、コロナ禍が始まって3月からずっと言い続けてきたことですので、ただ単に、学習の教科を進めるだけでなく、家庭としては学校との繋がりが欲しかったはずです。一方的に学習を与える、教科を進

めるものではなく、やはり、オンラインを進めるにあたっては支援者である人が大事。本当は双方向であることが大切。というオンラインであって欲しいと思います。以上です。

○西田委員 谷川参事が話されましたように、休業中に日野市の先生方は全ての子どもたちの学びと育ちが止まることが無いようにと、学習のプリントを配ったり動画を配信したり、家庭訪問をしたり、何度も電話して子どもと話したり、頑張ってくださいました。しかし、長い期間でしたので、プリントの配布が続き、例えば、国語の教科を読みましようなどの、「何々をしましよう」という指示が続くと、飽きてしまって学習意欲が低下したようです。一方、先生に応援していただきながら、調べたいことや、やってみたいことを見つけて、それを探求していく活動に、たっぷりの時間を作って集中できた子どもは、満足度が高いし、学校が始まってからの学習への意欲も自信も際立っていると先生からお話を聞きました。休業による学習の遅れなどが心配で、どうしても詰め込み型の授業になりがちかもしれませんが、こういう状況だからこそ、一層先生方には第三次基本構想に掲げている、疑問や驚きから生まれる問いを大切にして、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどり着く学びを実践して子どもたちに主体的に学習に向かう意欲と自信を高めていただきたいと思っています。教育委員会はそれをしっかり応援していきます。

次にICT関係の教職員の研修と設備の設置についてです。休業中、学校や教科部会が学習の動画を作成して配信してくださったので、子どもたちはオンライン学習をすることができました。これは日野市の教育にとって画期的なことだと思います。ある学校では、動画作成の得意な先生を中心にして、先生方が勉強しながら動画を作成してとても良いものができた。子どもや保護者の評判も良いと校長先生が話されておりました。新型コロナウイルスがいつ終息するかわからない状況にあって、オンライン学習の必要性は高まると思います。また、不登校の状態にある子どもにとっては必要な学習手段だと思います。質の高い動画を作成したり、うまくそれを活用したりできるよう、先生方もICTオンライン関係の研修の機会を是非作っていただきたいと思っています。また、ICTオンラインの環境設備もよろしく願います。

○高木委員 まず、授業での学びは谷川参事より説明された内容で、私自身は全く同感ですし、単に時間だけではなく、どういった風に影響していくかについては、学校現場との認識合わせをしながら今後進めていただければ良いと強く思います。本来、児童や生徒にとって、将来社会的にどう生活するかとか、世の中に貢献するかという、将来像を描きながら、現視点での立ち位置での学びの意味や、学習の意味、必要性を考えるべきだろうと思います。多くの場合、このような過程ですとか、考察が無いままに教育や学びを強いられ学習内容に気持ちが向かず評価をされ、単なる受験での合格のテクニックとしての学びになってしまうので、学ぶことが楽しくなく苦痛になってしまうのではと、自分自身の体験を振り返って改めて感じます。出来る限り、可能

な範囲で自分の興味や好奇心に基づき学ぶことができ、自分なりの発見や好奇心を満たしたり、満足感を得ること、場合によっては失敗したり、体験・経験のプロセスは、特に若い人にとっては長い人生を考えると非常に重要ではないかと考えます。特に、学校では成功体験も大事ですが、いろいろと失敗や誤りをした方が、後の人生で大きく役立つのではないかと私自身は感じております。学校での先生の役割も変わっています。変える必要があると思います。今日のように人工知能・AI技術が発達してくると、児童・生徒に従来の知識技術を教える部分はAIに委ね、先生は生徒・児童の人間性であるとか、社会性の形成や学びへの向き合い方を担うようになる。今日の資料でいくと、伴走的な役割になる。働き方改革を踏まえた役割分担は可能であり、必要になるのだと考えております。今回新型コロナウイルス感染予防のために長期間の学校休業がありまして、ICTを活用したオンラインでの各種学習メニューの提供が始まりました。日野市でもいろいろな取組がはじまっております。

現在の学校授業は全てオンライン化する必要があるとは考えませんが、オンライン化を第3次日野市学校教育基本構想の「一律一斉の学びから、自分にあった多様な学びと学び方」を進める大きな柱の一つになると考えています。また、今回のコロナ禍で体験したように、児童生徒の学びを止めないためにも、オンラインを活用した学びは、いつでもどこでも学ぶことが出来るインフラとしてより重要性が増し、必ずなくてはならない、必須なものではないかと考えています。まずは、先ほど説明のあった不登校対策の運用ですとか、教員の役割分担と働き方改革になることを大いに私自身は期待しています。今後のなかでは、5Gをはじめとする、多くの技術革新により、教育以外の分野でも社会基盤としてオンラインは広く、大きな役割を担うものだと考えています。オンライン環境の整備では、日野市の財政負担は軽くない、大きいものだと考えますがけれども、是非、ご配慮をお願いしたいと思います。以上です。

○教育長 各委員さんがお話ししたので、まず、ひとりひとり、学習のメカニズム、それから自分を動かす原動力が違うということです。それから、安心のメカニズムもひとりひとり違うということです。それは全ての子に、すべての子が前に進める環境をつくっていかねばならないと思います。それには、子どもと対話的にいろいろなことができる。家庭とも対話ができる。それによって子どもたちが望んでいること、背景が見えてくるということだと思います。そのなかには、障害を持った子もいるし、今は学校に行くことを選択しない子も、全ての子を含めて、そういう環境を作っていくことだと思います。今、学校は、地域に支えられているということを実感しています。

全ての人々が自分を実現出来て、そして三次構想に書かれているようにすべてのいのちが喜びあふれるという未来をつくっていく。ある教育委員さんがこんなお話しをしていました。今まではゴールが見えていた。これからはそういう時代ではない。こういった時には三次構想に書かれている羅針盤がとても大事になる。その中で第三次構想をきちんと確認しながら、新しい時代をつくっていく。また別の教育委員さんは子

どもも大人も新しい時代の第1年だという話をしていました。まさにそういうことだと思います。

○大坪市長 ありがとうございます。今の学校を見ていただいて、カリキュラムに追われていて詰め込みをやっているわけではないという姿が見られたということで安心できることかと思えます。また、このコロナ禍を通じてリアルな教育の実現というのも大切だなという話がありました。それとICTの組み合わせという話がありました。一堂に会してという話もありました。指示に従うのではなく、主体的な学びという話も出ておりました。高木委員からはAIとかオンラインに対する期待、それから体制づくりについてもお話もいただきました。オンライン授業については恐らく、OECD諸国の中で比較すると、2000年代初頭はそんなに日本は遅れていなかったのですが、この20年で最下位になっているというのが実際にあるそうです。

今回のコロナ騒ぎでヨーロッパを巻き込んで全世界的な圧倒的に多くの子たちが不登校、学校に行けなくなったけれども、先進的な国は皆オンラインで対応できた。しかし日本は対応が遅れたというのが現状かと思っております。今後どうしていくかということで、ギガスクール構想という話があります。日野市は予算的に厳しいけれどもなんとか対応したいということでやっております。ただ問題はオンラインを入れても、教員が使いこなせるか、本来のリアルな教育とオンラインの関係性も必要。また、今出来ることをオンラインにしても仕方ない。先日、各課からでコロナ騒ぎの中でリモートワークの予算要求の話も出ましたが、今ある仕事をそのまま自宅へ持ち帰るという発想ですと、たぶんうまくいかないと思います。教育も同じであって、オンライン教育を通じて何をするかというのが必要であって、皆さんの総意として、第三次学校教育基本構想の子どもたちの主体的な学びを実現するためのインフラとして日野市として使っていかなければならない。そのためにはハードルがあると思います。もちろん財政状況もありますし、それを担う教員の方々、それを受ける子どもたちとどのようなものを作っていくのか、というものがないと、恐らく1人1台パソコンがあっても、実現しない。そのようなことを深く考えさせられるものであったと思います。

最後に、学校と家庭、そして教育委員会における対話について考えてみたいと思います。これまで以上に学校と家庭、そして教育委員会の対話というのが大事だと思っております。そのあたりについて、教育長お願いします。

○教育長 3月から教育委員会、学校は色々な発信をしていたが、その意図がしっかりと伝わっていたか。その伝え方・手段、それから、どう受け止めてもらっていたのか、その時の本音はどうか。そういうやりとりについては課題があり反省もしている。今、市長がおっしゃったように、これからは新しいものをつくっていくということです。そのためには、きちんした対話の中に相手の背後が見えてくるような、お互いに学校は家庭、家庭は学校が見えている中でどのようなものをつくっていくのか。そういう関係性ができるコミュニケーション。対話が問われるだろうなと思います。この

3か月何が出来ていなかったのか、これからどうするか、しっかりと考えていきたいと思えます。

○ 大坪市長 今のお話しを受けて、ご意見ありますか。

○ 西田委員 教育長と同じ思いでいます。休業中に教育委員会からも学校からもたくさんのお知らせが保護者や市民に送られました。一生懸命伝えたいけれど、果たしてどれだけ真意が伝わったか。考えてしまいます。今後はもっと伝わるための工夫や努力があっても良いかと思えます。ある中学校の6月5日発行の学校だより増刊号では新型コロナウイルス感染症対策として家庭にお願いすることが絵と簡潔な文章とわかりやすい紙面構成で作られていて保護者への心配りが感じられました。これならしっかり伝わったと思えました。また、頭にではなく、胸に、すなわち心に伝わるのが大事だと思っています。そのためには、受ける側の気持ちになって、言葉を選び、率直な気持ちを率直に表現することがとても大事です。自分自身もなかなかできませんが、心がけていかななくてはならないと思っています。最後に、本音ですが、子どもたちにとって、とても楽しみな修学旅行や移動教室が中止となり、水泳指導も行われにくい状態になっています。これは子どもの成長にとって、はたしてどうなのだろうか。楽しい思い出を持ち得なかった子どもの先を考えると、胸の痛い思いがします。といっても今の状態では仕方がないことです。新型コロナ感染が1日も早く終息ことを願うばかりです。

○高木委員 関係者との対話ということですがけれども、私自身はこの3か月間にいろいろ初めてのことがありました。教育委員会で一生懸命、関係者に周知した内容にたいして市の施策としてご理解をいただいたことに対し、協力をいただいたことには率直に感謝御礼を申し上げたい。また、給食の実施に関しても財政的な配慮を多くいただいたと思っています。そのうえで、我々も多くの論議し発信をしましたが、私の経験上、発信した情報の2割、3割しか受信側に届いていない。あるいはもっと少なかったかもしれない。率直に発信側と受信側のギャップがある。意識の違いは大きいと思えます。

私自身は再発防止の観点では、学校が発信した情報に対して、保護者や地域がどう受け止めているのか、モニタリングというか、フィードバック。それによって、自分たちの発信したことが、きちんと受け手に伝わっているか。そういう仕組みが不足しているのかなと感じております。いろいろな関係者の意見をフィードバックできる仕組みについては検討していくべきと考えます。いずれにしても対話は非常に重要ですし、お互いに理を尽くしていくことをしなければならないと思えます。以上です。

○真野委員 私も対話についてということで、違う角度かもしれませんが、コロナを



通して子どもたち自身も最初は学校が休めてラッキーというのもあったかもしれませんが、それが長期化してくると、友達に会えない寂しさや、学校へ行けない不安が出てくると思います。こんなに家族と過ごす時間が長かったことは未だかつて無かったのではないかと思います。こういう例を通して、これまでの当たり前が、当たり前ではないということに気づかせてくれたのが今回ではないのかなと思います。今回、情報の通じ方や対話ということですが、お互い当たり前ではない環境の中での情報のやりとりということで、ある意味ではホットなうちに、お互いの思いを確認しあい、次にいかしていただきたいと思います。コロナには頭脳は無いと聞いていますが、コロナが挑戦してきていることは、人と人の物理的な分断だけでなく、心の分断ではないかと思えてなりません。とすれば、今こそお互いが気持ちの連鎖を強めていく時ではないかと感じております。以上です。

○東委員 発信という点に関してですが、今回教育委員会でも様々なことを話し合い、方針を決め、発信をしてきたつもりです。言葉をひとつひとつ一生懸命考えたものですが、なかなか伝わりにくいということは良くわかっております。学校としては正直、今までは上手に発信ができていなかったと思います。それは当たり前前に学校に子どもたちが来てくれたから。そこにプリントを渡すという文化があったから。コロナ禍で急に子どもたちが学校に来なくなった。昔からHP発信というツールはあったが、学校としてなかなか活用できていなかったというのは確かなことです。ただ、この休校中で先生たちはすごく頑張りました。動画を作成してHPに張ったり、たくさんの課題やメッセージを載せたり工夫をしました。なので、まだまだこれからという思いがあります。これからより家庭に繋げていくように。プリント文化から時代は変わってメールの要望がとても強い。なので、メールでの一斉配信をして、学校ホームページを見てくださいという発信の仕方は多い。だんだん学校側もHPのリンクを張るなど、工夫も増えてきました。そういう風に学校も努力をして、今後も情報発信をしていただけたらと思います。

また、対話として、第三次構想の中にみんなで話あっていくキーワードがたくさんあると思います。この中でオンラインも含めて、一律一斉の学びからの多様な学びと学び方への脱却や楽しく学べるICT環境やひとりひとりへの支援体制が学びと育ちを応援してくれます。こういうところも含めて、家庭とともに、子どもたちとともに一緒につくっていったらと思います。そして先ほど教育長に言われてしまいました、羅針盤。これから大事だと思っています。学校でもキャリア教育などが出てきておりますが、ゴール・なりたいものを決めて、そこに向かっていく教育が今まででしたが、コロナ禍の影響で一歩先が見えなくなりました。決まっていたことが、思ってきたことが、夢にしてきたことができない。目の前でできなくなる。そういうことを経験したときに、やはり、折れない心。柔軟な心。そういう心を耕していかなければならないと思っています。そういうときに自分の羅針盤を磨いて欲しい。共に皆でやっていきたいと思っています。以上です。

○大坪市長 ありがとうございます。情報発信と対話について、この間、とりわけ感じたのが卒業式をどうするか、私のところに届いた話として、なぜ保護者を入れないのかというお話しがありました。いろんな議論があって、いろんな形になった。ただ、最終的に保護者の方々が外にいて、出てきた子どもたちを迎えるという工夫があったようです。このコロナの状況になって、対話ができなくなった。東委員からもありましたように、学校に子どもが来ればプリントを配って伝わるという、ある意味安易なツールの伝達方法の対話がダメになった場合に、情報が伝わるということが難しくなるということが痛切に感じられたと思います。高木委員からもありましたように、発信する側からの思いの2割、3割しか届いていない。そういう状況もあったかと思えます。今回いろんなことがあって、私も痛感いたしました。今後どうするかというのを考える必要があると思います。具体的には高木委員から話がありましたようにモニタリングをして、どう変えていくかという視点も必要。伝える側は、こうすれば伝わるというところで止まってしまう。その後の伝わり方になかなか思いが至らない。

それは教育委員会だけでなく、行政全般もそうだと思いますし、この間、手厳しい意見もいただきました。今後、ますます情報発信・対話については大切にしなければならないし、また、このコロナ騒ぎはまだ終息しませんから、その在り方が問われてくると思います。それによって、人が生かされたりするし、そうでなくなることもあります。そんなことを感じながらお話しを聞かせていただきました。とりあえず、議題についてはこれが最後になりますが、他に総合的に何かご意見等ありますか。よろしいでしょうか。

多くの貴重なご意見、本日はありがとうございます。引き続き市長部局と教育委員会で協力しながら学びと育ちの教育ビジョン実現に向けて取り組んでいきたいと思っております。また、ビジョン策定から5年経ちました。新しい状況の中で基本を変える必要はないかと思いますが、中身について、柱のひとつひとつについて見直すという作業もそろそろ必要になってくるかと思えます。事務局ともしっかりと工程を作っていくしたいと思います。今後もご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは最後に次第の3について、事務局より説明をお願いいたします。

○中村課長 それでは、次第の3、その他でございます。今年度のこの後の総合教育会議につきまして、ご説明申し上げます。この後の総合教育会議につきましては、本日の会議を基本として、緊急な案件が発生する等、議論すべき事項があった場合、その都度ご相談の上で開催をさせて頂きたいと考えております。事務局からは以上です。

○大坪市長 ただいまの事務局からの説明について、または、その他全体を通してご質問・ご意見がございましたらお願いします。なければ、今後については事務局からの説明通り進めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。本日予定いたしました議題は全て終了いたしました。

それでは、これをもって令和2年度第1回日野市総合教育会議を閉会いたします。  
本日はありがとうございました。